

東灘が無敗で優勝

神戸市スポーツ少年団リーグ5部

51年度神戸市スポーツ少年団5部(小学4年)は1回ずつ総当たりのリーグ戦を行い、東灘Cが6勝1分けの成績で優勝した。他の部の試合は10月に終了していたが、日程の都合で遅れていた5部も12月、全日程を終えた。東灘Cは御影に引き分けたほかは負けなく勝ち、総失点をわずか3点におさえ、23得点をあげた。これまでどちらかというところ、4

年生からサッカーを始めて5、6年に強いチームに育てあげられる東灘も、最近では1、2年の時からボールをけり始める選手が多く、これが今回の好成績につながったといえる。神戸FCはリーグ戦が始まったころは、試合の中でプレーするのがやっとなという感じだったが、系統的な指導によって少しずつチームらしくまとまり、東灘を追いあげて2位に食いこんだ。このほか、3位の御影から7位の千歳までどのチームも元気の選手がすこやかに成長しており5、6年になつたとき、どんなプレーを見せてくれるか楽しみにしたい。

あすなろは神戸少年サッカースクールの生徒でつくられたチームだが、メンバーの集まりが少ないなどの事情もあって、8位になってしまった。チームの名前にまけないよう明日に向かってがんばってほしい。東灘サッカースポーツ少年団
▷監督 島山喬 ▷選手 本多彰、岡田義夫、小坂進、中島幸生、大島準生、吉田徳思郎、緒方義広、高橋志郎、雑賀敏行、近藤浩司、前田裕、北中康伸、佐野英昭、建部厚、片下康治、佐々文章、丹波正行、内山勝吾、速水堅一郎、太郎館治(以上東灘小)

51年度神戸市スポーツ少年団リーグ5部成績

順位	チーム	東灘C	神戸C	御影C	成徳C	蓮池C	湊川多聞C	千歳C	あすなろ	勝点	得失点差
1	東灘C	6-2	1-1	1-0	3-0	2-0	5-0	5-0	13	20	
2	神戸FC・C	2-6	4-0	1-0	0-2	2-0	2-1	6-0	10	8	
3	御影C	1-1	0-4	0-0	2-0	1-1	2-0	5-0	9	5	
4	成徳C	0-1	0-1	0-0	2-1	5-0	0-1	5-0	7	8	
5	蓮池C	0-3	2-0	0-2	1-2	0-0	3-0	5-0	7	4	
6	湊川多聞C	0-2	0-2	1-1	0-5	0-0	6-0	5-0	6	2	
7	千歳C	0-5	1-2	0-2	1-0	0-3	0-6	1-2	2	-17	
8	あすなろ	0-5	0-6	0-5	0-5	0-5	2-1		2	-30	



神戸FCレディース

高木 清水、中尾、木村仙波、野島倉橋、蓮池、牛尾、広田、ちよつぷりおすましの神戸の魔女たち左から吉岡高月コーチ

いしとやかな姿に帰る。強烈なシュートを決めるチームきっての得点王・清水万帆(高1)さんは、バイオリンでも神戸のトップクラスの腕前。また、野島さんもピアノの先生として子供たちに音楽の夢を与えるなど、イレブン全員がサッカー以外にすばらしい趣味、才能をもっているのが、このチームの誇りでもある。その時もうひとつの“レディース”のさわやかな顔をのぞくことができる。

あなたもけてみませんか
美容と健康に一石三鳥

神戸FCレディースではメンバーを募集しています。汗をかいてとてすてきです。もちろん美容と健康にも効果抜群。

また、レディースチームのお世話をしてくれるマネージャーの方も歓迎します。できれば神戸市内のお住まいで、事務所(県立神戸高の東100メートル)に週1回程度、通っていただける大学生か無職の方を望みます。

ご連絡は
神戸FCレディースチーム ☎078-861-3100
〒657 神戸市灘区上野通6丁目
神戸フットボールクラブ

恋人は白黒ボール

関西女子リーグで堂々3位



六甲おろしの冷たい風が吹き抜けるグラウンドで、無心にボールを追う女性のグループがある。港が見わたせる神戸高校の朝は、立っている足元から冷えきってしまう。それでも準備運動から始まり、障害物の間をぬっていくドリブルをやるころになると、ひたいには汗が冬の弱いやさしさにうっすらと光ってくる。51年度の主な行事を終えて、今ところ大きな試合の予定はないが、まもなくやってくる新しいシーズンに備えて、目下トレーニング中といったところ。一日の練習の仕上げはスモールゲーム。その日参加したメンバーが紅白に分かれて、ゴールを競いあう。「シュート!」「こちらへパスよ」と髪をなびかせ若い体ははねる。

神戸少年サッカースクールの幼稚園のクラスを担当していた数人の女子大生が中心となって、チームが誕生したのは今から1年ほど

前。チームカラーにふさわしく名前も“レディース”と決めた。高月コーチの指導で、のみこみのよい選手はたくましく成長し“神戸の魔女”の存在は各地に知られた。みんな試合の日が楽しみで明るい顔が並ぶ。1週間も前から勝利の秘策に思いをめぐらし、ソワソワするとかしないとか。チーム結成もない昨年5月には、対外試合として初めて東京で開かれた全国女子ミニサッカー大会に出場し、みごと準優勝に輝いた。関西女子リーグにも参加し、京都西山高、神戸女学院に次いで9チーム中3位の成績をおさめたのはりっぱ。FCレディースはそれとあきたらず伊賀上野、岐阜への遠征試合にも足を運ぶエスカレーターで、「ボールをけている時とても楽しいわ」と声をはずませる。

試合ではハッスルプレーを見せる選手たちも、ひとたびグラウンドを離れると女性らし

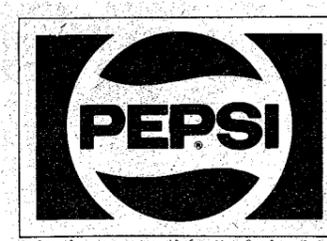
編集後記

● いてつくような寒い日が続く。木々は葉を落とし、ねこやなぎも春がくるのをじっと待っている。十何年来かの寒さだそう。こんな時は温かい風呂にも入って、熱かんをグーッといっぱい……でなのは大人の理屈。御崎グラウンドではひざ小僧を出した少年たちが、吹きすさぶ風にほほを真っ赤に染めてボールをけている。みの虫のように重ね着した大人には、身震いしそうな光景だが、さすがに「子供は風の子」

● 日本協会が決定した年齢別の登録制度は、理解しにくい人も多いことだろう。むろん、今すぐ各種大会が大幅に変わることにはならないが、年齢別に統一することにより、年齢資格のある人はだれでも仲間とチームをつくらせて日本協会主催の大会に参加できるようになる

● JFA リーグズスクールを終業された20数名の受講生の方々ご苦労さまでした。今後ますます精進してください

● 春の足音ももうすぐそこまで。本紙は4月で50号を迎えます。サッカーに関するものなら何でも結構です。つどし読者コーナーにお寄せください。(つ)



神戸のサッカー

神戸FCがチャンピオン

2位は大健闘の蓮池

第4回神戸市少年大会

女子は池田が優勝



51年度神戸市少年大会最終日は12月30日、神戸市中央球技場で神戸FC・Aー蓮池の決勝戦が行われ、神戸FCが優勝した。試合は立ち上がりから神戸が積極的に攻め前半、井上の活躍で2対0とリード、後半も先手を取り続けて蓮池の反撃を振り切った。

後半に入っても、総合力にまさる神戸が一方的に攻め続ける。井上が角度的ない位置から決め、山本もダメ押しで4点目をあげた。一方、蓮池は準決勝で優勝候補の東灘を4-0で破り、もりあがったムードで試合にのぞみ、再三神戸ゴールをおびやかしたが今一歩おぼやらず、終了近くに石橋の決めた1点にとどまった。

決勝
神戸FC・A 4 (2-0) 1 蓮池

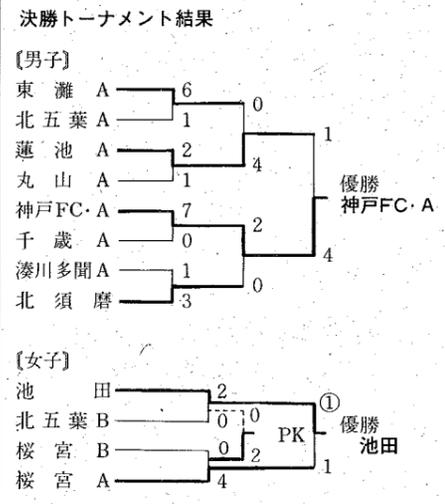
ゲームは天皇杯全日本選手権大会準決勝に先立って行われたこともあって、キックオフの時はすでに正面スタンドは観衆で埋まっていた。神戸の少年選手のだれもがあこがれる少年大会の決勝は、クラブチームの神戸FCと伝統をほこる蓮池の対戦となった。神戸は井上、中塚ら6年生が軸となってゲームをつくり、蓮池戦に特に強い5年の山本が前線がんばり、終始試合のペースをつかんだ。シュートがゴールポストをそれるきわどい場面が続いた後、右45度から得たフリーキックを、山本がジャンプして蓮池バックスを引き出し井上がヘッドで鮮やかに決めてまず1点。さらに前半15分、フリーキックからのパスを山本が落ちついてコントロールし、ゴール左す



から行われた予選リーグを勝ち抜いてきただけに、どの試合も寒さを吹き飛ばす熱戦が展開された。昨年度に続いて優勝をねらう東灘は北五葉を6-1で下し、さい先のよいスタートを切ったが蓮池に敗れた。北須磨も準決勝で神戸FCの前に涙をのんだが、中川監督の献身的な指導のもと、6年の塩田らを中心に気持のよいサッカーをやっており、今後の成長を見守っていきたい。

女子の部は4チームで争われた。池田と桜宮が決勝を戦ったが、1対1のままゆずらずPK戦の結果、池田が優勝した。

写真の説明
▲優勝した神戸FC・A
▼チャージを受けながらシュートをねらう神戸・名生選手(12月30日、神戸FCー蓮池、神戸中央球技場)



登録制を年齢別に

52年度から 日本協会が決定

日本協会は12月3日の理事会で、52年度から年齢別の登録制度を採用することを決めた。これまでの制度では、第1種の社会人、第2種の大学生から第6種の小学校児童までに分かれていたが、このチーム登録を52年度から新しく第1種(年齢制限なし)、第2種(19

歳未満)、第3種(16歳未満)、第4種(13歳未満)の4種類にすることになった。これにより、すべてのチームに参加のチャンスが均等に与えることができ、サッカーの普及・振興をさらに高めるねらいから変更されたものである。

また、従来のチーム登録費のほかに、所属チームを通じて新たに選手登録費(1人年間700円)を設けることにした。この選手登録費については、52年度はとりあえず第1種に加盟しているチームの選手だけに適用し、第2種、第3種、第4種に対しては53年度以降となる。

50号記念 作品募集

本紙は4月号をもって創刊以来50号を迎えます。これを記念して4月号では特集ページを企画し、読者コーナーに設ける予定です。広くみなさんの投稿をお待ちしています。サッカーにまつわる思い出や体験、詩、写真、また協会や本紙に対する要望など題材は自由です。200字内外にまとめて3月5日までにお寄せください。採用率は紙上に掲載します。ご記入のうえ、〒215 神戸市兵庫区東山町川崎重工 東山寮 上野勝幸まで。なお、投稿は神戸、兵庫のほかに県外の読者の方でも結構です。

どしどし
ご応募を

神戸、静岡に屈す

全国高校選手権大会

小、中、高の指導の一貫性が必要

会場を関西から初めて首都圏に移した51年度全国高校選手権大会は、元旦の開会式のと2日から8日まで各地区の31代表による好ゲームが展開され、浦和南が2年連続優勝の偉業を達成した。決勝は浦和南と静岡学園の間で行われ、激しい攻防のなか勝負強さにまさる浦和南が、5-4という決勝戦ではめずらしいスコアで勝利をおさめた。しかし、惜しくも優勝を逸した静岡学園は、これまでの高校チームはもちろん日本リーグのチームにも見られない高度なテクニックを披露し、日本中のサッカーファンに強烈な印象を与えた。日本のトップチームが敗れるたびに「サッカー＝スピード」説が台頭するが、ドリブルがサッカーの出発点であることを静岡がはっきり示してくれた。大人の選手にプレーの早さを欠くことはできないが、その過程においては、あわてずボールをもつ習慣を身につける時期が必要ではあるまいか。スピードを強調し過ぎるあまり、サッカーの本質を見失うようなことがあってはならない。そのような意味において、今回の静岡の活躍は日本の少年やユース年齢のサッカー指導にひとつのヒントを与えることになりそうだ。彼らがこれからスピードやパスワークを身につけると、どんな選手に成長していくのだろうか。5年後、10年後のプレーをぜひ見たいものだ。



神戸は桜木(白)のシュートで先制点をあげる(1月4日、1回戦 神戸-相工大付、駒沢競技場)

り守備の弱さを突かれてしまった。個々には桜木、林をはじめ柴田、千葉、厚田など特徴をもった選手が多いだけに、素材の育て方によれば全国のトップクラスのチームにするのも可能であったと思われる。だが、大会が終了した現時点において、兵庫の関係者が考えなければならないのは、高校3年間の鍛え方よりも中学、小学時代の指導のあり方ではなからうか。一度ボールを持ったらなかなか取れない、ボールが持てるからゆっくりとまわりの状況判断ができる静岡チームには、1、2年の選手が多かった。これは中学時代にサッカーに必要な基礎を、すでに身につけてい

たことを意味するものである。県下の高校チームの指導者と密接な関係を持ち、ふだんから少年サッカーの育成に力を注ぐべきである。そうすることが結果的に、よい高校チームをつくることにつながるのではないだろうか。兵庫では少年サッカーが非常に盛んだが、一貫した指導のもとで中学、高校へと育っていく選手は少ない。この問題は以前から指摘されており、関係者の努力も見られるが、現状ではまだまだ十分ではない。今こそ、関係者が英知を集めて取り組まねばならない時期であるといえよう。

十分だったか 施設、運営面

首都圏と関西で交互に開催しては?

大会期間中、会場に足を運んだ観客の数は昨年を上回ったが、施設や運営面では十分とはいえないところも見られた。まず、グラウンドのひどさをあげることができる。霜だけで軟弱なため、足をとられてミスプレーが目立ち、サッカーの興味が半減してしまう試合がいくつか見られた。たしかに両チームとも同じ条件のもとで戦うのだから、試合の結果には関係ないかもしれない。しかし、失敗しないためにボールをさわる回数を減らし、ゴールヘラッシュする戦法が出



グラウンドでは技術が死んでしまう。大宮の会場は特にひどかった。どうだろうか

てきた時、ゲームの中から「技術」が消え、サッカーの正しい姿がゆがめられることになりはしないか。大宮などでは降雪を防ぐために夜間はむしろが敷かれていたが、効果は全くなかったといつてよい。国立競技場もやはりよくなかった。来年度はしっかりした準備と確実な対策を施してもらいたいものだ。

また、この大会はテレビ局が後援となって熱戦の様子が放映され、多くのファンを楽しませてくれた。そのありがたさは十分に理解できるが、テレビ放映の都合が前面に表れており、主催側の自主性の回復を強く望む声があちこちで聞かれた。1回戦の大半が4日に行われるのに開会式を天皇杯決勝の前に挙行したり、親しみの持たれていた伝統ある大阪大会を特別な理由がないのに首都圏へ移したのはその一例であり、テレビ局側の意見に押し切られたと見るほかない。

このほか会場が各地に分散しており、たとえば大宮と駒沢の間は電車、バスで実に2時間もかかり不便も多かった。グラウンド条件などではるかにすぐれている関西での利点も考慮して、大会を首都圏と関西で交互に運営してはどうだろうか。それによりいろいろな問題も解決できるのではないと思われる。(ウエノ)

神戸製鋼が1部制覇!

51年度神戸市社会人リーグ

2部優勝は神大同好会(A)、神戸FCユース(B)

3部	A	B	C	D	E	F	G
優勝	赤塚山OB	電々神戸	舞子台	ヒルケル	魚崎クラブ	ビートルズ	南神戸朝鮮
2位	ケンタッキ	大同生命	神大OB	海事検定	灘神戸生協	関電神戸	アーセナル
3位	兵庫教員B	朝銀信用	アーベッツ	星陵クラブ	鶴甲1丁目	国鉄鷹取	ドクターズ
4位	灘.F.C	神戸税関	ダックス	是則運輸	摩球倶楽部	白鶴	水道局
5位	アパッチ	ナゾコ	タツクラブ	カイザーズ	三菱ユース	太陽神戸	川西倉庫
6位	三洋電機	クレモナ	川鉄本社	会下安	三菱電機	大協	エシジョイ
7位	三星堂	リバサイド	ホワイト	光	ロジェ	西菱エンジ	YMCA
8位	阪神変圧器	三ツ星	双和OB	山本設計	富士娘	三井倉庫	垂水プレイ
9位	富士電機	-	-	-	検定新日本	-	-

対戦成績は3月号に掲載の予定

りっぱな指導者として巣立つ

JFAリーダー講習会終了 兵庫協会

昨年11月21日に開講したJFAリーダー取得講習会(主催兵庫協会、後援兵庫県教育委員会)は1月15日、全日程を終了した。主会場の神戸大学は気温5度前後の寒さだったが、五島裕治郎、一北四郎氏らのコーチと20名あまりの受講生は、毎日確実にハードスケジュールを消化した。コーチの熱心な指導に受講生は息つくひまもないくらいで、スクールが終わるころには、心身ともりっぱなコーチに育てあげられていた。

講習会の内容は別表のとおりだが、講義と実技が交互に行われる。たとえば日曜の朝、9時過ぎから約1時間のサッカー理論の講義のあと、グラウンドではきびしい戦術、体力のトレーニングが待っており、昼食をすませると休む時間もなくスポーツ医学に取り組むという調子である。コーチは選手に実際に

やって見せながら指導することが大切だという方針に沿い、実技の習得にも重点が払われている。

最終日には実技と筆記試験が行われた。日本協会の平木隆三技術委員会指導部長が審査員となって進められた実技試験では、息ぎれする選手があちこちに見られた。3人対3人、6対6、2対2のスマールゲームをきめられたスペース内で行うのだが、平木氏の採点の目を意識したのか、どの顔も予想以上のきびしさに少々とまどい気味。

平木氏が「ボールをもらうためにフリーな位置へ走り込む時の鋭さ、それに攻守の切りかえの早さが今の日本サッカーに欠けている」とまた主催者側を代表して高砂兵庫協会理事長が「講習会で得た指導法、技術、心などを所属のチームや県下各地でどう生かすかが今後の課題であり、同時に親しい仲間ができたこの講習会を機会に、縦、横の関係を密にして兵庫サッカーの発展に尽くしてほしい」とそれぞれ激励。受講生は2か月間のスケジュールをこなした満足そうな顔を見せ、巣立っていく。



講習会終了後、受講生と指導員が記念撮影。(1月15日、神戸大学)

講習内容

実技	戦術	技術	体力
120分×10回	4	3	3
講義	60分×16回	2	1
サッカー理論(ルール)	(歴史)	1	1
(協会運営と組織)	(戦術と作戦)	3	2
運動理論(指導法)	(キネシオロジー)	2	1
(スポーツ心理学)	(チームの統率)	1	1
スポーツ医学(生理学)	(解剖学)	1	1
(救急法)		1	1
指導実習	120分×2回	1人20分	
少年の指導	12歳未満		
青年の指導	12歳-18歳		
テスト	JFAリーダーテスト	実技テスト	筆記テスト
	HFAリーダーテスト	実技テスト	筆記テスト

ユニオンが優勝

=社会人中央大会=

県リーグ昇格

51年度兵庫県社会人中央大会は県下各地区の代表24チームの中から勝ち抜いたユニオンロマンチカ(西宮)、兵庫朝鮮(神戸)、鐘化高砂(東播)、中央ホンダ(姫路)の4チームが出場して12月5、12、19の3日間、六甲高と磯上グラウンドで行われ、ユニオンロマンチカが優勝して52年度兵庫県社会人リーグへの昇格を決めた。

また、2位の鐘化高砂、3位の中央ホンダがそれぞれ県リーグの日触姫路、川崎重工との入れ替え戦に出場する。

社会人中央大会決勝リーグ戦成績

順位	チーム	ユニオン	鐘化高砂	中央ホンダ	兵庫朝鮮	勝点	得失点差
1	ユニオン	△	△	△	△	5	-7
2	鐘化高砂	△	△	●	●	3	3
3	中央ホンダ	○	○	○	●	2	-4
4	兵庫朝鮮	○	○	○	○	0	-6

神戸社会人リーグ運営会議日程

2月17日(木) 3月17日(木)

- ◎本紙は次のスポーツ店にもあります
- 関正スポーツ**
生田区下山手通6丁目65 ☎078(371)0857
兵庫県庁300m西側
 - 灘スポーツ**
灘区倉石通5丁目1-8 ☎078(861)4671
市バス水道筋6丁目上がる100m東側
 - ヤマダスポーツ**
葦合区熊内橋通6丁目3 ☎078(241)9317
雲中小学校前
 - 塩谷スポーツ**
兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870
バンドウ化学南

JFAコーチ誕生

加藤、岡本の二人

51年度のJFAコーチングスクールはトヨタスポーツセンターで、前期7月11日~24日、後期11月29日~12月13日の2期に分かれて行われ、31名が51年度の卒業生として日本協会から認定された。

兵庫県からは加藤寛さん(26)と岡本隆英さん(31)が、きびしい講習と試験に合格し、新しくJFAコーチに仲間入りした。

加藤さんは社団法人神戸フットボールクラブの職員として、青少年の選手づくりに日夜努力しており、サッカーを通じて社会体育を積極的に推進している同クラブの中心的存在である。現在、中学生年齢とユース年齢のチーム育成を担当し、その情熱的な指導のもとから、明日の神戸、兵庫を背負ってはばた



加藤 寛さん 岡本隆英さん

く選手の出現もそう遠い日のことではないだろう。また、岡本さんは最近めきめき力をつけてきた神戸市立須磨高の先生だが、関西社会人リーグの兵庫教員団チームの監督もつとめており、その手腕がいよいよ本格的に発揮される時がきた。持ち前のサッカー理論とすぐれたチームづくりの才能に一層みがきをかけてもらいたい。

52年度社会人チーム受け付け

神戸市協会

神戸市協会では52年度登録希望の社会人チームを受け付けています。

申し込み.....はがきにチーム名、代表者氏名、住所、電話番号等を明記のうえ3月5日までに届くよう郵送のこと。

あて先.....〒657 神戸市灘区篠原南町2丁目4-31
中村寿男 ☎078-861-7069 (自宅)

資格.....特になし。ただし1チームにつき最低3名は審判員に登録しなければならない。

登録料.....1チーム1年間につき31,000円(昨年の実績)程度。このほか日本協会個人登録費が1人1年間につき700円、なお兵庫協会、関西協会、日本協会へのチーム登録費は上記金額に含む。

備考.....登録希望チームの代表者は3月10日(木)午後6時、神戸登山研修所(阪急西灘駅下車、北へあがる徒歩5分)に集合のこと。